

癌化学療法レジメン登録用紙

レジメン名 BEP
対象疾患 胚細胞性腫瘍(精巣腫瘍など)

催吐リスク
中/高度

※イモド使用は個別に

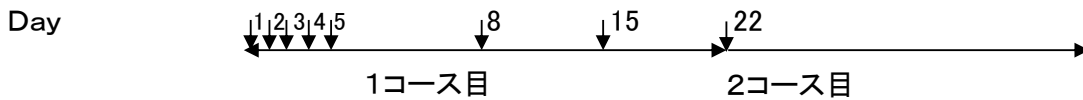
令和元年12月18日 プレオ溶解用生食20mL→50mL

a) 投与薬剤名と投与量、投与方法

	薬剤名	量	投与方法
day1	①	生食500mL	120分で点滴
	①-側	グラニセトンバッグ3mg/100mL+デカドロン6.6mg	30分で点滴
	①-側	生食50mL+プレオ30mg/body	全開投与
	②	生食500mL+ベプシド100mg/m ²	120分で点滴
	③	生食500mL+シスプラチン20mg/m ²	120分で点滴
	④	ソルデム3A 500mL	120分で点滴
	⑤	生食50mL	ルートキープ用
day2, 3, 4, 5	①	生食500mL	120分で点滴
	①-側	グラニセトンバッグ3mg/100mL+デカドロン6.6mg	30分で点滴
	②	生食500mL+ベプシド100mg/m ²	120分で点滴
	③	生食500mL+シスプラチン20mg/m ²	120分で点滴
	④	ソルデム3A 500mL	120分で点滴
	⑤	生食50mL	ルートキープ用
day6, 7	①	生食100mL+デカドロン6.6mg	30分で点滴
	②	ソルデム3A 500mL	120分で点滴
	③	ソルデム3A 500mL	120分で点滴
day8, 15	①	生食500mL	120分で点滴
	①-側	生食20mL+ヒドロコルチゾンコハク酸エステルNa100mg	静注
	①-側	生食50mL+プレオ30mg/body	全開投与
	②	生食50mL	ルートキープ用

b) 投与スケジュール

1コース21日



※塩酸プレオマイシンの総投与量は300mg(力価)以下とされている。

ただし、胚細胞腫瘍に対し、確立された標準的な他の抗癌剤との併用療法にあつては、360mg(力価)以下
※発熱等プレオによる副作用コントロール困難な場合点滴速度より緩徐にすること考慮。